

令和2年度の目玉研究等 林業研究所

◆リモートセンシングやICT技術を活用した森林資源 調査手法に関する試験・研究開発

【背景】

- ・ 森林の管理・経営を行う上で、樹種や本数、材積などの森林資源情報の把握が必要です。森林資源情報の元となる樹高や直径などは、現地で人が立木1本1本を計測する必要があり、調査には多大な労力がかかります。
- ・ 近年、ドローンなどを用いて遠隔操作で計測するリモートセンシング技術の開発が進み、森林資源調査における活用が期待されています。

【目的】

- ・ 森林資源調査におけるリモートセンシング技術の実用化に向け、計測の精度やコストを検証し、実用的で効率的な計測技術を開発することが目的です。

【R2目標】

- ・ 地上レーザー、ドローンレーザー、ドローン写真による計測を行い、これらの精度やコストを検証します。
- ・ 昨年度はスギ人工林を対象としましたが、今年度はアカマツ林についても調査を行っていきます。

【今後】

- ・ 各種手法の精度向上や組合せの方法を検討するとともに、県内での実証を進めていきます。



地上レーザー(背負いタイプ)



ドローンによる空撮

お問い合わせ

林業研究所 森林資源部 (電話017-755-3257)